

旅人と無限——私のヨブ記——

福原哲郎

3 時代と魂

時代は進む。多彩な潮流をくり広げ多くの建設をなしとげながら。

しかし、やはり魂は

この世の糧だけではみたまされないと。

それなら、天上の淨い糧は

どのようにして成就されるのか。

人間のこの社会での複雑な営みのなか

そのどこで、存在への許しがくだるのか。

どこで人間は「あなたの存在にも

深い意味がある——」という声を聴き、

しみじみ感謝することができるのか。

人間のこの世的なあり方にすぐにはなじむことができず、

人間という最も多様な存在のなかで

太古から現在に到るまで

さまよい続けている可哀そうな魂よ。

魂はこの地上では、容易に安らいの住所を

見つけることができないと嘆くのだ。

魂はもろもろの時代のなかを

さまざまに人間のなかを、多くの旅をして

ひたすらに考える。

魂は何のために地上に生れるのかということ。

人間の地上において

最良の建設とは何であるかということ。

魂を想う者は試練に出遇う。

魂の完成を夢見る者は試練に出遇う。

それは人間の歴史では

時代の要請と魂の要求が一致し合っていたような、魂の黄金時代が存在しないから。

時代の内部にはつねに空虚と悲惨がみちている。

神が承認する時代は一つもなく、

魂の証言に耐える時代は一つもない。

魂の声に耳を傾ける者がどんな試練にも遇わずにすまされた幸運な時代は

かつて一度も存在しなかった。

そこではつねに魂の全体の満足が欠けており、

そこではつねに最後の郷土が欠けている。

このとき、人間の魂はこの地上にあって

どんな遍歴のちに、どんな場所に、  
その仕事と本来の安らいを定めるか。  
この世の数ある旅のなかで魂は  
自らの望みを果すために  
どのような旅を体験するだろう。

魂は私たちの地上において  
貪欲にむさぼることもなく、  
緑の大地に腰をおろしてただ健やかに落着くこともなく、  
自らの遠い来歴と、隠されていた使命に従って  
母なる大地をはるかな領域に貫き、  
まずそこに落着くことを願っているかのようにである。

男の魂は、より高く  
より清澄な燃焼にこがれ、  
広々とした思索と瞑想を求めて  
万物の様相を見通すことができる高き山々の頂きに、一人登ることに憧れる――

女の魂は、生命の豊かな循環と  
甘美な結合の神秘を想い、  
始原のふるさから誕生した一切のものを抱きしめることが可能な世界の淵であることを願って、

どこまでも広く茫洋とした  
愛の海原として拡がることを夢見ている――

魂はそこで何を見て驚きの声をあげ

そして、何を想うのか。

どんな創造の願いに動かされて

ふたたび魂は、日夜

その美しい胸をこがすのか。

21 愛 (I・パート3)

あなたは一体誰ですか

わたしたちの地上には 何人も

あなたのような人が歩くのです

あなたに苦が見える

正直な苦が

人間の苦や世界苦が

あなたが流す涙は

どんな父もとめることができな

どんな母もふきとることができない  
だからわたしは 心の中で「神」を呼びに行く

あなたは 拒絶と抱擁とのたえまない渦の中を生きていて

あなたはまるで自分が主人ではないかのよう

未知な勢力によって揺り動かされている

あなたの身体の周囲には いまでも不気味な

不可解なものが残されていて

それでわたしは あなたに対して

外側から入っていくことができます

あなたはいつからか絶対の風貌を身につけてきた

あなたの心には壮嚴な白がある

その周囲にこそ多くの微妙な色彩をもっている

思ふに 誰か 誰か 誰か 誰か 誰か

あなた 誰か 誰か 誰か 誰か 誰か

あなた 誰か 誰か 誰か 誰か 誰か

あなた 誰か 誰か 誰か 誰か 誰か

あなた 誰か 誰か 誰か 誰か 誰か